

## 令和4年度 大台町地方創生会議 会議録

日時 令和4年7月19日（火）

午前10時から12時

場所 大台町役場2階 会議室

### 出席者（敬称略）

- 座 長 西村訓弘（三重大学教授）
- 委 員 山中俊一（株式会社百五銀行三瀬谷支店長）、橋本昌幸（昴学園高等学校校長）、前納太輔（大台町商工会青年部部長）、遠藤実華（農業者）、野田綾子（株式会社V e r d e大台ツーリズム）、森本哲生（大台町副町長）
- 説明職員 辻本産業課長、大森教育課長、尾上町民福祉課長、西本企画課長
- 事 務 局 西本企画課長、宮本

---

開会（10時00分）

### 開会

#### ○森本副町長

みなさん、おはようございます。大変お忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございます。ご出席いただいた方々につきましては、街づくりや色々な面でご活躍いただいたり、ご指導いただいている方々で心より感謝申し上げる次第でございます

今日もどのような会議になるか非常に楽しみに今日この場に出席させて頂いております。私共役場の職員がなかなか外へ出て色々な方々と交流することがコロナを機会に非常に少なくなりました。そのことにより本当に皆様の思いがこの創生会議に生かされているかどうかも含めて全体にいろんな面で心配しておるような状況でございます。

どうぞ今日は非常に知見の高い片方ばかりでございますので忌憚のないご意見を賜ればと思っております。

そしてまた西村先生には今もお話を伺っておりますと国の方の仕事で非常にお忙しい日々を送って頂いております。こうしたグローバル的な感覚の中で仕事をして頂いておりますのでちょっぴり辛い講評もいただける、そのことが大台町の街づくりにとって非常に大事だと私自身思っておりますので、どうぞ今日はわずかな時間ではございますがよろしくお願ひします

何れにいたしましても課長の皆さんにはこれからもお話しさせていただこうと思っておりますが、リーダーは熱意と誠意と創意、この3つが私は非常に大事だと思っておりますので、そこに気づいてやっていくということでございますので、この場が気づきの場になればという風にも思っております

色々な面でご足労おかけいたしますがどうぞよろしくお願い申し上げます。本当に今日はお忙しいなかありがとうございます。

## 各自自己紹介

### 事務局説明

#### ○西本企画課長

それでは、改めまして、事務局から本日の進行等についてご説明させていただきます。

#### ○事務局（宮本）

まず、はじめにお配りしました資料の説明をさせていただきます。

資料1をご覧ください。

令和2年度からの第2期大台町まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた目標とその達成状況をまとめたものとなっております。

資料2につきましては、それぞれのプロジェクトの取り組みの指標として設定しておりますKPIについて示したものとなっております。

資料3につきましては、この後、それぞれ事業を担当する町民福祉課、産業課、企画課、教育課から、交付金事業とプロジェクトの中から5つの事業についてご説明させていただきますので、こちらの資料をご覧くださいながらお聞き取りいただければと思います。

資料4としまして、今回検証していただくプロジェクトに関する部分を抜粋した「第2期大台町まち・ひと・しごと創生総合戦略」をお配りさせていただきました。

それでは、資料1によりまして、事務局から基本目標達成状況についてご説明させていただきます、そのあと資料3によりまして、担当課からご説明をさせていただきます。

資料1をご覧ください。

基本目標1については、第2期の目標としまして、商工会員数351人を目標としており、これは、平成30年度末の会員数と同数であり、人口減少に伴い会員数も減少が予想されますが、さまざまな施策を実施し、現状維持を目標としています。

令和3年度末の状況としましては、商工会員数361人で目標を達成しております。

基本目標2については、第2期の目標としまして、過去3年間の平均値での出生数50人を維持できるように努めてまいります。

令和3年度末の状況としましては、過去3年平均の出生数42人で目標未達成となっております。

基本目標3については、第2期の目標としまして、観光入込客数は、平成30年度の約10%増加の570,000人を目標とし、また、転入者数と転出者数を比較した社会増減数につきましては、転出者数を減少させ、-30人を目標としておりますが、令和3年度末としましては、

観光入込客数 309,470 人、過去 3 年平均の社会増減数 - 67 人で、いずれも目標未達成となりました。

基本目標 4 については、第 2 期の目標としましては、令和 6 年度実施予定のまちづくり町民アンケート調査での「住みやすいと思う人の割合」50%を目標としております。

この後、事業担当課から資料 3 によりまして、交付金事業と第 2 期のプロジェクトから抜粋してご説明させていただきます。

また、地方創生推進交付金事業につきましては、外部有識者で構成される検証機関により評価を行うこととされておりますので、担当課の説明の後、委員の皆様から様々な角度からのご意見を頂戴したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

以上で事務局からの説明を終わります。

#### ○西本企画課長

続きまして、担当課長より主な事業の進捗状況等について説明をさせていただきます。

まず初めに町民福祉課長から、プロジェクト 4「豊かな成長と発達」についてご説明申し上げます。資料 3 の 2 ページ、資料 4 の 4 から 5 ページをご覧くださいながらお聞きください。

#### ○尾上町民福祉課長

資料 3 の 2 ページをご覧ください。

プロジェクト 4 「豊かな成長と発達」、「心身ともに「豊かな子どもを育てる支援と虐待防止」について説明させていただきます。

このプロジェクトでは、3つの事業を掲げております。

まず一つ目は、児童発達の支援です。心身の発達に課題がある又は障がいがある子どもたちの豊かな成長を支援するため、早期療育の取り組みをしています。具体的には、児童発達支援センターを多気郡 3 町で共同設置し、令和 3 年 4 月に開所しました。2021 年度の大台町の利用実績は、実利用人数が 11 名で、延べ 323 回の利用がありました。これにより、障がい福祉サービスの「児童発達支援」や「保育所等訪問支援」のほか、町の健診や教室にもセンターから専門職種に加わってもらい、早期療育に向けた体制を整備しています。

2つ目は、児童虐待防止体制の強化です。虐待相談実績は、2020 年度が 14 件、2021 年度が 9 件という状況です。児童虐待に関しては、その防止がもっとも大切だと考えておりまして、そのための取り組みとしまして、子育て世代包括支援センターや子育て支援センター、保育園などの関係機関が日頃から保護者とのコミュニケーションを図り、保護者が抱えている悩みなどを相談できる体制づくりに努めています。また、虐待と疑われるケースを発見した場合には、速やかに関係機関が連携し、児童相談所と町が早期の対応に努めております。

3つ目は、CLM と個別指導計画の活用です。三重県の途切れのない発達支援システムの一環として、当町でも各保育園、認定こども園で取り組んでおり、保健師、保育士だけでなく、

小学校の教員も参加してもらうことで、小学校に入学してからも、その子の特徴に応じた支援が途切れなく続けられる体制を整備しています。

2021年度の実績は26件で、2024年度の目標数値の8件を大きく上回っております。件数が増えた理由としては、令和2年度からそれまでの各園1ケースであったのを、加配保育士を必要とするような気になる子全員を対象に行うこととしたためです。これにより、保育士がこの手法をマスターし、保育力の向上と全ての子どもに分かりやすい保育の実践に取り組んでいます。この件数については、多ければよいというものではなく、取り組む必要がないというのが理想です。ただし、行動の気になる子や発達障がい児への取組として一定数は将来的にも取り組んでいく必要があると考えております。

以上のような取り組みによって、全ての子どもの心身ともに豊かな成長と発達を支援する体制づくりに取り組んでいるところです。 以上で説明を終わります。

#### ○西本企画課長

続きまして、産業課長から、プロジェクト5「情報発信、宿泊滞在環境の充実」とプロジェクト6「エコパークのまち環境整備と観光誘致」についてご説明申し上げます。

資料3の3から4ページ、資料4の10から13ページをご覧くださいながらお聞きください。

#### ○辻本産業課長

産業課からご説明いたします。

お手元の資料3の3ページをお願いします。

2行目ですが、総合戦略の基本目標3 魅力と住みやすい町を発信し人をひきつけるに掲げています

プロジェクト5 情報発信、宿泊滞在環境の充実に係る実施事業ですが、上段のみだしにあります「奥伊勢フォレストピアキャンプ場整備」について、ご説明申し上げます。

事業概要にありますように、新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光業、特に宿泊施設は利用者が減少し、大きく影響を受けてまいりました。

一方、コロナ禍によりアウトドアのニーズが高まりを見せており、自然の中で行うキャンプは非常に人気があり利用者が増えているという傾向にあります。

大台町の森の中のホテル「奥伊勢フォレストピア」でもコロナ禍により、屋外で3密が回避できるキャンプが人気で、夏場はもちろんですが、冬季でも週末となるとキャンプの利用者が順調に推移していました。

町では、このようなwith コロナの時代を踏まえ、令和3年度に施設内のわんぱく広場付近にキャンプ場を増設し、ホテル以外の宿泊環境を充実させました。

写真の真ん中にありますウッドデッキサイトが2か所、写真の左側ですが、自由にテントが張れるフリーサイトが7か所と、炊事場、既設のトイレの拡充等を実施いたしました。

今年のゴールデンウィーク前にオープンしましたが、ゴールデンウィークはほぼ満員、それ以降も土日を中心に順調に利用者を迎えています。

また、一部の利用者ですが、キャンプで利用いただいた方が、後日、ホテルの利用につながるなど、リピーターの確保、ホテル利用者の増加への波及効果も出ています。

このような新たな宿泊環境の拡充により、滞在日数を伸ばす多様な周遊ルートを形成するなど、さらなる町への誘客につなげてまいりたいと考えています。

また、奥伊勢フォレストピアを指定管理で運営する第三セクターの(株)宮川観光振興公社は、コロナにより利用者が減少し、近年厳しい経営状況が続いていますが、今回のキャンプ場の拡充により、この環境を活かして、収益を増加させて経営改善につなげる、このような事が期待されるところです。

下段の KPI につきましては、新たな宿泊環境の拡充により滞在日数を伸ばす多様な周遊ルートを形成することで、観光施設の経済的な波及効果を見込み、奥伊勢フォレストピアと同様に町の集客・拠点である「道の駅奥伊勢おおだい」の消費額の増加を掲げていますが、現時点ではコロナの影響で、利用者が減少しており、厳しい数値となっています。

今後は、今回のキャンプ場整備により滞在日数を伸ばす取り組みつなげるなど、with コロナの時代を踏まえた観光の受入を充実させて、目標値の達成を目指してまいります。

次に 4 ページお願いします。

2 行目ですが、総合戦略 基本目標 3 魅力と住みやすい町を発信し人をひきつける

プロジェクト 6 「エコパークのまち」環境整備と観光誘致ですが、

1 行目のみだしにあります「エコパークのまちへの教育旅行の誘致」についてご説明いたします。

事業概要にも記載しましたが、教育旅行とは、教育上の目的で実施される旅行で、修学旅行や社会見学、遠足などの校外学習がありますが、コロナ禍により、小・中学校の修学旅行や社会見学は、遠方への移動を取り止め、県内での実施や旅行日程の短縮など、実施方法が変わってきており、内容も三密が回避できる自然の中での体験学習が人気となっています。

大台町には農林業体験や歴史、文化、自然など教育旅行に最適な素材があり、この素材を活用して NPO 法人大杉谷自然学校や DMO 候補法人の Verde 大台ツーリズムが教育旅行の受入を積極的に行っています。

大杉谷自然学校は大杉谷地域のフィールドを中心に環境教育プログラムを提供しており、いくつかの選べる体験型の教育プランを企画・発信して、教育旅行の誘致を進めています。令和 3 年度は 3 校の教育旅行を受入れており、さらに誘致を進めるため、教育旅行受入れのパンフレットを作成して、県内の小・中学校へ PR を行いました。また、Verde 大台ツーリズムが清流宮川での SUP など川や山でのアウトドア体験を提供して、教育旅行を受け入れております。

教育旅行も町の特色ある観光として、積極的に発信し、特に世界機関であるユネスコにより、

国際的に認められたエリア「ユネスコエコパークのまち大台町」を発信することで、高付加価値の教育旅行として注目度が高まりますので、このような優位性を活かして、町へ観光誘致に努めてまいります。

教育旅行の誘致につきましては、三重県でも県南部地域への小・中学校、高校の教育旅行に補助金を交付して誘客を図っており、県とも連携して町への誘客に努めてまいりたいと款会えています。

下段の KPI につきましては、奥伊勢フォレストピアの入込客数を高めることを掲げていますが、現時点ではコロナの影響で、利用者が減少しており、厳しい数値となっています。今後は、先ほどご説明しましたキャンプ場の整備や教育旅行の誘致により、利用者を増加させて、目標値の達成を目指してまいります。

産業課事業の報告は以上でございます。

#### ○西本企画課長

続きまして、プロジェクト7「人が集い、繋がるまちづくり」のご説明を企画課からさせていただきます。

資料3の5ページ、資料4の14から15ページをご覧くださいながらお聞きください。

このプロジェクトにつきましては、大台町では年々人口減少が進んでおり、人口減少に伴って、同じように空き家が増えています。空き家対策としましては、平成24年度から空き家バンク制度を創設し、空き家の利活用を進めており、令和3年度末で108件の成約と218名の利用に繋がっています。

最近では、町内を通っている熊野古道伊勢路の沿線に、ギャラリーやカフェ、古民家民泊などを起業される方もみえ、町の賑わいに貢献していただいています。

当町ではそういった方たちの活動拠点として町内の空き家を利活用すべく、令和2年度から地方創生推進交付金を活用し、空き家の調査や聴き取り調査、ワークショップなどを行って、事業を進めてまいりました。

令和3年度は、令和2年度に引き続き、空き家の利活用につながる活動として、利活用可能と思われる空き家の内観調査を行うとともに、クラフトマン支援として、ものづくりを生業とする、またはしたい人々の個々のニーズに合わせたサポートを提供、さらには、人材づくりとして、Uターン人材に焦点を当てたワークショップを開催しました。

また、このプロジェクトと連携した取組としまして、大台町空き家・移住相談窓口を設置するとともに、移住者を移住コーディネーターとして配置しました。これまでは行政のみで対応していた空き家バンクの運営や空き家所有者、空き家を探している方双方からの相談について、大台町へ移住された方などを任用することで、より柔軟で的確な対応ができるようになりました。

しかしながら、町内には空き家が多く存在するものの、空き家バンクに登録される空き家がまだまだ少なく、移住希望者が求める様々な希望に十分対応できる供給体制になく、当町へ

の移住を断念された事例があるなど課題があります。

今後としましては、供給できる空き家の件数を増やすことがこのプロジェクトを進めることに繋がると考え、引き続き利活用可能な空き家の掘り起こしを行うとともに、クラフトマンへの支援にも取り組み、熊野古道伊勢路のかつての賑わいを取り戻せるよう努めていきたいと思っております。以上でプロジェクト7の説明を終わります。

続きまして、教育課長から、プロジェクト8「ボートのまち大台町への躍進プロジェクト」についてご説明申し上げます。

資料3の6ページ、資料4の16から17ページをご覧くださいながらお聞きください。

#### ○大森教育課長

まず、資料の説明の前に、昨年度の国体の中止に関わって、簡単に説明させていただきます。申し訳ありませんが、口頭のみで説明させていただきます。資料はありません。

昨年8月から9月にかけて三重県も含め全国的に新型コロナウイルスの感染者が大きく増え、8月27日には三重県に「緊急事態宣言」が発令されました。

それまでは、選手団等のPCR検査など徹底した感染防止対策を講じ、国体については実施していくとしてきたところですが、8月に入って感染者が増えてきたことで、三重県の医療提供体制も一層負荷がかかり、病院等での受け入れが不可能になる可能性が高くなってきたこと、多くの教員を含む中高生の補助員の確保が難しくなったこと、各競技会場の救護所に配置する医師、看護師の確保が困難になったこと、県民からも不安を訴える声が上がってきていたことなどから、大台町で実施予定であったボート競技も中止となりました。

多くの関係者のご協力をいただいていたところですが、非常に残念な結果になってしまいました。

ただ、国体は中止となりましたが、国体前の6月に「東海高等学校総合体育大会」、国体のリハーサル大会になりますが、6月12日、13日の2日間、奥伊勢漕艇場で実施いたしました。

この大会では、感染症対策として、入口で健康チェックシートを毎日提出、提出時に検温をするなど対策を講じまして、この大会での感染者は出ていない状況でございます。

リハーサル大会としては、規模の小さいものでありましたが、国体前のよいリハーサルができたものと思っています。

それでは、資料に基づいて、「ボートの町大台町への躍進プロジェクト」について、ご説明申し上げます。事業概要のところをご覧ください。

三重とこわか国体ボート競技の会場として、令和30年度、31年度と管理棟の建て替えや体育館等の修繕などを行い、スポーツ拠点の一つとしてB&G海洋センターの整備を行ってまいりました。

管理棟には令和2年度にトレーニング器具を設置し、令和3年度から健康づくりや体力づくりに活用いただいています。平日の20時までと土曜日の9時から17時まで利用可能となっています。

今年から、健康ほけん課と協働して、月に3回程度ですが、理学療法士に来ていただいて、マシンの使用方法を含め、本人の身体状況に応じた運動方法の指導をしてもらっているところで、健康づくり等に役立ててもらっていると感じております。

また、管理棟前の芝生広場は、憩いの場として家族連れの方に利用していただいています。ボート競技人口が少なくなってきた中、少しでもボートに興味をもっていただくために、町内の子どもたちを対象とした水上スポーツの体験教室を開催したり、学校授業の一環としてボート体験を実施しています。

令和2年度も子どもたちの体験教室を開催しておりますし、今年も回数は少ないですが、ボート教室を開催する予定です。ただ、現在コロナの感染者が非常に多くなっているため、中止せざるを得ないかもしれません。状況を見て判断していきたいと考えています。また、小中学生のボート指導も、学校からの要請で今年も行っています。コロナが拡大してくる数年前までは、町外の学校も受け入れていましたが、現在は町内の学校のみとなっています。

合宿の誘致としては、企業や高校のボート部が、自然豊かで練習環境の良い奥伊勢湖漕艇場での合宿を行っていただいております。今後も合宿の誘致を進めていきます。今年も4月5月に企業のデンソーさんや県内の高校も合宿に来ていただいております。

また、水上カーニバルが新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため2年間開催できていませんが、参加目標数500人に向け、規模を縮小しながらでも実施に向けて取り組みを進めていきたいと考えていまして、今年は県内にお住いの方を対象に、実施を予定しています。50～60クルー、300人規模となる予想をしていますが、このカーニバルもこれからの状況により、中止になる可能性もございますが、感染症対策をしっかり行い実施できるよう、考えているところです。

最後に、奥伊勢湖漕艇場は、県内唯一の漕艇場でございますので、ボート競技はもちろんなのですが、体育館やトレーニングジムなども活用して、スポーツの普及、体力づくり、健康づくりなどの取り組みを進めていきたいと考えております。以上でございます。

#### ○西本企画課長

以上で現在の取組内容、進捗状況等をご報告させていただきました。

それでは、ここからは西村先生に進行をお任せして実施事業の効果等を検証して頂きたいと思っております。西村先生よろしく申し上げます。

## 意見交換

### ○西村座長

ありがとうございました。詳細にわたり取り組みを聞かせて頂いて率直な意見としましては、コロナで苦勞されていること、また、少子化や人が出て行くという全国的に起こっている現象が大台町でも起こっているところが見えました。せっかくだからこそお一人ずつ説明についてご意見をお願いします。

### ○遠藤委員

奥伊勢ファームランド大台具体的にどのような内容なのかお聞かせください。

### ○辻本産業課長

プロジェクトの概要でございますが、奥伊勢ファームランドという名称のとおり大台町全域を一つの農場と位置付けまして、担い手の確保や支援、生産物のブランド化や農業体験プログラムを図ることで、いわゆる農業収入を上げていこうというようなプロジェクトでございます。

言葉では簡単ですが、なかなか農業収入を上げるというのは厳しいと私も思っているところでございます。特に最近では米の価格が下落し、逆にそれに掛かる経費が高騰しておりますので非常に農業自体が厳しい状況となっております。

奥伊勢ファームランドはこのような内容ですが、コロナ渦における農業についても町として支援していく必要がございます、ここにはありませんがコロナだからこそ農業者を支援していかなくてはいけないので、色々な支援策を実施しているところでございます。

奥伊勢ファームランド大台というのはコロナの前の取り組みを書かれたものでございまして、現状でそこを進めていくのはなかなか難しいところがあるように思っています。また少し方向転換したり現状を踏まえた支援の必要があると思っております。

### ○西村座長

今の農業の実態というのはどうですか、遠藤さん。自身で農業をされていて感じるがあればお願いします。

### ○遠藤委員

特に今年から農薬とか肥料の値段がすごく上がっていて、もともと利益率が少なかったところにさらに厳しいのかなと思います。

もっとみんなお米を食べてくれたらいいのになあと思っておりますけど、そんな声が出ないのが寂しいなあと思います。

大台町については大規模に何かするっていうのは難しいので小さな家庭菜園くらいの規模

の農家さんを大事にしなくてはいけないのかなと思います。

そういう方が一人一人やりがいを持ってなくては継続できないのかなと思います。

農業をどんどん辞めていく人がいて、農地がソーラーパネル変わっていくと、移住を希望される方とか観光目的に来る方とかから見ても魅力として少し下がるんじゃないかと思えますので、やっぱり農地は農地のまま耕作されているというのが良いのではないかなと思います。

生産物の売り先のひとつとして道の駅があると思いますが、最近ちょっと生産者の方が離れていくように感じていまして、それを戻ってきてもらうのにどうしたらいいのかなって考えていたのですが、もちろん売れていくのが一番で生産者の方も売れる物を作らなくてはいけないと思うのですが、道の駅の方にも頑張ってもらいたいと思います、例えば納品に来た時に従業員さんとかがちょっと声をかけてくれるとか、今日もありがとうとかそういうのが実はすごく大きいのかなと思っていて、今はわりと商品を置いて生産者はすぐに去っていく、それだけの関係がします。そういう声掛けとか人のふれあいとかが実はすごく大きいのではないかなと思います。

このように色々な事業取り組まれていますけど何年か経つと尻すぼみになったりとかするので、その後はどうか様子を見てもらうようなことが大事なのかなと思います。

#### ○西村座長

貴重なご意見ですよね。

現実問題として資料とか肥料が上がってきて、町として補助があるとかわからないですが、そういった値上がりに対する状況把握と、どういうふうに対応できるかっていうのが必要だと思います。

後小さな生産者を大事にする町っていいですね。

せっかく道の駅があるのに今話を聞くとコミュニティと言うのか人の交流の場としての機能がちょっと落ちているような感じがしたので、そこはお金をかけるのではなくて気持ちの問題かなと思います。こういうことを共有することで町が動いていただけるだけでも変わってくるのかなという気がしました。いかがですかね。

#### ○辻本産業課長

道の駅は人と人が集う交流が目的の施設でもありますので、やっぱりそのような交流がないというのは非常に寂しい思いをしたところでございます。

コロナによりまして毎月実施していただいていた生産者の集いのような振る舞いのようなイベントができないのも一つの原因とは思っていますが、ただ、それだけではなく道の駅側にも問題があるのではないかなと思っていますところでございます

小さな農家さんを支援する取り組みですが、こちらにつきましてはコロナの交付金を活

用いたしまして、農家の次期作を支援するための補助金を出させていただいて、厳しい状況を支援していきたいと思います。

また畜産の農家も大変厳しい状況でございますので大台町は松阪牛のブランドの産地でございますので、これまでの松阪牛の種牛の補助も新たに増額をいたしまして支援をさせていただいているところでございます。以上でございます。

#### ○西村座長

そのように支えるのが絶対必要だと思いますが、どれだけ戻ってくるかにもよりますよね、増えていって欲しいですね。これを見るとまだ落ちたままですよ、まだまだですかね。鳥羽マルシェとか取扱量が増えているのは確かですよ。

コロナでちょっと苦しんだけど、やっぱり年率5から10%ずつ上がっています。

それは結果的に生産者に全部還元されていて作る人が増えてくってという流れです。

どこに売りに行っているのだろうなって思ったら結構割と地域外の人を買うっていうのができていて。多種類の野菜が常にあるって、ある量が超えた瞬間地域の人たちがそこで買うような。

また、今その調査を始めたのですが、津で起こってきている現象は、ちょっと変わった野菜があるからということで市内のいくつかのレストランがそこに仕入れに行くような。地域内の交流、例えば情報提供的なもので、今度こんな野菜が欲しいとか、こんな物を作ると言われたらこんな物を作るとか、もしくは先ほどのコミュニケーションの場、生産者の方が来て物を納めたらみんなでちょっとだけ休めるような休憩所みたいなのがあればとかですね、意見交換をしたり、コロナだから難しいことですが、そろそろそういう意識も終わるとしたら、小さい生産者の方々をいかに大台町に残して、それが結果的には大台町の風景を残していくということなので、それが今逆転していて、どうも生産者の方たちが寂しさを感じて辞めていく、すると農地がだんだん放棄されていく、太陽光パネルなどが増えてきて景観が悪くなって移住してくる人も観光に来る人にも良くないというちょっと悪循環の方に流れています。

気持ちの問題から変えていくようなことが何かできるのかな、やっぱり生産者の方が喜びを持ちながらできるって言うような、町を維持する非常に貴重なメッセージかなと思って私は聞いていました。ありがとうございました

#### ○前納委員

まず遠藤さんにお聞きしたいのですが道の駅さんで、だんだん生産者の方が離れていく現象があるってお聞きしましたが、その理由ってコミュニケーション不足だけですか。

#### ○遠藤委員

そういうわけではないと思いますけど。

### ○前納委員

例えば高齢化が進むとかコロナで物が売れなくなったとか、なんかそれがどうなのかと思ひまして。

### ○遠藤委員

具体的に聞いた話では、地元の物しか置いていない道の駅だったのですが、そうすると台風が来た場合など品物がなくなりますし、同じ物しか置いていないなど、そういうこともあって仕入れをされるようになりました。逆に仕入れされるようになるとこの時期これを作っていたのは自分だけだったのに他所から同じ物が仕入れられてガツカリとか。それから農場を大きくするためと思って始められたと思うのですが、結局皆さん作っている物と同じ物を作っていて、いっぱいある物が更にいっぱいあるようになって、そういう諸々ですかね。

後は手数料が上がったり、高齢化とか病氣されたりとかそのちょっとした事の積み重ねが増えてだんだん農業を辞めていく。

### ○前納委員

たしか農業って企業が入れないような法律があったと思いますが、小さなコミュニティで生産して行くのだったら、いかに単価を上げることを考えていかないと多分負けて行く。したとしても売上として伸びていかない、後は皆さんが作っているような物を作ると、一次産業の良し悪しというのはそこで台風でボツにもなれば他の所で取れてそちらが高騰する博打的なところもありますが、もし町としてこれをバックアップして支援していくのだったら需要と供給のバランスを考えた上での生産農家の生産をしていかないとなかなか厳しいのかなと思ひました

プロジェクト 5 で教えて頂きたくて、確かに今キャンプブームと言うかライトユーザーからしたらすごく美味しいと言うかありがたい事業だと思います。

ちなみにこれは集客数を求めているのか売上を求めているのかどちらですか。

### ○辻本企画課長

集客です。

### ○前納委員

集客ですか、要は何が言いたいのかと言うと、偉そうなことを言ってすみませんが、この事業はすごくいいと思いますが、フォレストピアの事業の根幹の赤字と言うか売上ベースを穴埋めするための事業ですか、それとも、情報発信と言うか自分たちの良さというのをアピ

ールして、もう1回コンテンツを作ってその情報発信をしていくという、どちらのものなのかなど。

#### ○辻本企画課長

後者は後者ですけど、現在、奥伊勢フォレストピアを運営している指定管理者の宮川観光振興公社という会社自体、非常に厳しい経営状況になっています。

ですので、このキャンプ場整備によって収益増加に繋がれば、そのような期待はございます。

#### ○前納委員

それに対して本来であればお客様からの売上でそこは回して行きたいという話ですよ。予算を使うのは大事だけど本来回して行こうと思ったら売上ベースで循環していかないと厳しいのかなとは思ったのですが、ごめんなさい僕は経営している側なので、何かこうこの情報発信っていうのが、例えばこのキャンプ場って確かにすごい人気があってみんなが探している状態になって、特にライトユーザーがキャンプできる所が県内でもできてきて全国的にもある程度できてきたのですが、大台町の宮川ってすごくいいところなのでお客さんが来ると思うのですが、結局これってランニングコストがかかっていくじゃないですか、かかってきた時に、お客さんが減る時が僕は来るような気がします。それは致し方がないと思うのですが、ただ情報発信という点で情報発信ってどういう情報発信をされていますか。

#### ○辻本企画課長

これは奥伊勢フォレストピアのキャンプ場整備が情報発信というメニューではなくて、プロジェクト5全体の取り組みで情報発信していくというプロジェクトでございまして、どちらかと言うと奥伊勢フォレストピアのキャンプ場整備は宿泊滞在環境の充実の取り組みでございまして。

#### ○前納委員

ということはこのキャンプ場自体を告知、情報発信しているのではないと。

#### ○辻本企画課長

当然していることはしています。

#### ○前納委員

その状態で今このキャンプ場は満員なのですか。

#### ○辻本企画課長

そうですねゴールデンウィークは。夏休みもほとんどです。平日はちょっと厳しいですけど。

#### ○前納委員

ありがとうございます。

ボートの町ということで、僕も本当にもう少し頑張らないといけないのですが、以前、僕は宮川ボートクラブ以外で県内県外の事業体とタイアップコラボして、そこから資金調達をして新チームを立ち上げる企画して 500 万円ぐらい集めました。それが僕の意向と町の意向と代表の意向の違いでポシャってしまったことがありまして、要は何が言いたいかと言うと、ボートの町躍進プロジェクトって話になってくると僕は資金だと思うのですよ、要は経済効率性の観点から見ていくと、これは具体的にどのような感じで進めていきたいのかなど。

僕もコーチをさせて頂いていますけど、僕らも手放しで偉そうに言いたいわけではなくて、町が躍進という言葉をつけてくれるならば、微力ながらももちろん尽力したいですし、これもクラブチームにしたところでこの限られた場所の中で利益を上げてくというのは結構難しいと思うし、協賛金となった時に協賛金って限りがあるので、本当は自立的な運動で補助金とかなく自分たちで回して運転していく、確保していく方向に持って行きたいんですけど、この躍進プロジェクトってどういう方向性で考えられているのかお聞かせください。

#### ○大森教育課長

今のところは、今ある施設を使って町内の小中学生の児童にボート体験をしていただきこれから年が上がっていくにつれて、ボートを好きになっていただくというのが、まずは考えているところです。それプラス後は高校の方も来ていただいたりしていますし、デンソーさんなどの企業も来て頂いているということで、そういった方になるべく大台町に来ていただいて、それほど利益というのは出ないと思うんですけど、そういったことで町の活性化とかに繋げていきたいと思っています。

ただ資金的なものは特にボートにつきましてはランニングコストというのはかけてはいないと思いますが、国体を開催するにあたっては体育館艇庫などを新たに修繕させていただきましたので、そちらの方を使っていただいてボートを好きになっていただく人を増やしたいと思っています。

こういったコロナ禍ではありますが町内の小中学校の体験をさせていただいています。できれば町外の学校につきましても受け入れをしていきたいと考えています。

#### ○前納委員

やっぱり僕も自分の務めと言うか責任の中で充実させて行きたいという思いがあるのですが、大台中学校ボート部が無くなったとか、それを止められなかったこととか難しいのは分かるんですけど継続させるというのは難しいと。

なかなか競技でトップを目指すというのと皆で遊ばせるというのとまた意味合いが違うので理由をしっかりとできたらなと思っています。

○西村座長

前納さん、大台町のボート練習場というのは日本の中で言うとどのくらいのレベル何ですか。

○前納委員

用途だと思います。

○西村座長

山形の石川町という所にも結構ボートが盛んだなって知っているのですが、ああいう所と比べて大台町はレベルが上なのか、大台町の練習場の環境って日本の中でもどうでしょうね。

○前納委員

もちろんいいところもあります。

ただコースの整備とかいろんな部分で他に劣るところは実際あります。

それが何かと言うと直線距離をとる部分がやっぱり短いですね。

それが高校とかだとレースの長さは 1,000 メートルなので、許容範囲なので練習場が確保できるのですけど。社会人とかジュニアとか全日本とかは 2000 メートルなので、そうなってくると短いんです。

○西村座長

技術的に無理なんですか。

○前納委員

それはもう無理ですね。ただ上流部ってめちゃくちゃ綺麗なんですよ。

あんな綺麗なところでボートを漕げるっていうことがあって、どちらかと言うとエンジョイクルーの方はそっちまで行ってそれこそ年齢関係なく。

○西村座長

ボート練習しているのを見るのは楽しいかなーって。見る観光って無いのと思ってね。

そうやってトップレベルの人達がたくさん来て、来てもらった人たちにこの時間だけはレースしてもらおうとか。

さっきの子供たちが楽しむというところなんかと分かれている気がしたのですよね。

見て楽しむがない気がしたので

例えばせっかく来ている団体がいるのだったら、団体の事を小学生や中学生たちが見に行  
って、トップレベルのものを見てすごく面白いなあって思ったらやるかもしれないかなっ  
て思うんですよね。

せっかく距離的には2000メートルはないけど、社会人の人達にとってはここが一番じゃな  
いかもしれないけども、トップレベルの人たちがここに来てちょっとやりたいなと思うよ  
うな場所にして、ここに来てもらったら町の人たちがそれを見ながら楽しむ、さっきの道の  
駅もそうなんだけど、ここに来る時に、あそこに行ったら練習が見られる面白いボートの練  
習場があつてね、とか言ったら特徴だと思うんですよね。なんかそういうのが聞こえてきた  
らどうでしょうね。練習している方は見られたら嫌だとかありますか。

#### ○前納委員

僕は実はそれ代表と話しをしていて、見て欲しいですよ。

ただ、いかんせん場所が閉鎖的な所なんです。車とかでは結構見て頂いていますが。

#### ○西本企画課長

観客席から見渡せる範囲が周辺200メートルぐらいまでで、1,000メートル先から走ってく  
る艇は小さく見えるぐらいです。

#### ○前納委員

国体整備の時に艇庫とか整備していただき、以前はどちらかと言うとガランとしていた所  
も芝生をひかれて綺麗になって子供さんが結構集まるようになった。

それが僕すごく嬉しくて。ただ公園とかではないので遊具みたいなものがあれば子供たち  
が公園に来るついでにボートを見るのかなというのもあって。

#### ○西村座長

何か全部が中途半端みたいで、何か一つ飛び抜けたら見る楽しみって出るような気がした  
ので。今は楽しいまで行ってないような気がしたので。せっかくのすごい財産のような気が  
します。もともと優勝したような人たちもいる町で、水が日本一綺麗な川で練習ができるわ  
けでしょ。1000メートルしかないかもしれないけど、すごい勢いで飛ばせる訳じゃないで  
すか。という所ってすごく見せる場としての観光のポテンシャルのような気がしたので、何  
か考えてもらおうといいのかなと。勝手なことを言いますが。

#### ○副町長

残念だったのが、早慶レガッタが来た際に子供に見せてあげたいなと思ったがコロナで入場制限がかかった。

デンソーが練習に来るし、私も見てこれは面白いなあという風に感じましたが、それを関係者だけしか見ることができなかったというのが非常に残念でした。

#### ○大森教育課長

国体は無くなりましたが、もし国体が開催されていたとしたら小中学生の児童に見学に来てもらうことを計画していましたが、コロナで開催できませんでした。一流選手のボート競技を見ていただくということを昨年は考えていました。

海洋センターの向かい側に公園があり、そこからの見学を考えていましたが結果できなかったということです。

あと、弥起井というかダムの周辺も綺麗にして頂きましたので、そこからはある程度見えるかなと思います。

ただやっぱり色々なところから見えるようにしていかなくはいけないということであれば検討したいと思います。

#### ○西村座長

ここに来る団体がいて団体としては見て欲しいと見たいという人がいる。

#### ○副町長

今度対岸をもっと整備すると町長が言っている。5年かかるか10年かかるかわからないけど素晴らしい所にロケーションはなっていくと思います。

#### ○前納委員

私も一経営者として町に全て任せて偉そうなことを言う気は全くないので、私も頑張っていこうと思います。よろしくお願いします。

#### ○西村座長

そういう連携をして大台町を特徴付けるのかなと思いますので、すごくいいような気がしました。

#### ○野田委員

それでは B&G の話だったので感想レベルの話になるのですが、修学旅行のこともプロジェクトにありましたけども、去年から修学旅行団体さんの受け入れを頑張ろうということでいろんな旅行会社に営業をかけて5～6校受け入れています。

今年の春で3校、MAXで120人まで受けることを挑戦しました。

120人だと午前中に60人、午後から60人で、水のアクティビティではすごく頑張らないといけない規模に挑戦しているの、凄くしんどかったんですけど、やっぱりこうやってたくさんの子供たちにやりがいを感じた。

こういうことができるのってやっぱりハードがないと難しいですよ。

ですので、今回はB&Gを綺麗にさせていただいて、広い更衣室と着替えた後にお話ができるような体育館も、後はそこからスムーズに帰れる環境があるということは私達みたいな事業者としても、とてもありがたかったなあと思います。

3年前とか4年前のあのB&Gだと来て下さいと言えなかったのが非常にありがたいと思っています。

ちょっと観光関係のことで先ほど前納さんに言っていただきましたが、プロジェクト5はキャンプ場、プロジェクト6の環境整備と観光誘致のプロジェクトですけど、この間アウトドアメーカーさんとちょっとミーティングする機会があって、もうキャンプ場は需要と供給が変わってきたよという風に言われました。

今もうコロナでキャンプキャンプということで、手を出せる人たちが全てキャンプ場を作って日本全国にキャンプ場があふれている状況です。

コロナ渦で今まで海外旅行に行っていた人達がお金をかけてキャンプグッズを集めて日本全国のキャンプ場を回っていたのが現在です。

もう来シーズンからはおそらくキャンプブームっていうのは安定してくるか少しずつ下がっていくかという中で残っていくキャンプ場っていうのは何かっていうのを、フォレストピアさん、観光振興公社さん、大台町さんとしっかり決めるべきなのかなと思います。

ちょっと質問ですが、このプロジェクト5のKPIは、なぜ、道の駅の消費額なのかなというところが解らなくて、さっき前納さんがそれを合わせて聞いていたのかなと。普通はこのKPIはキャンプ場の入込客数なのかなあるいは売上なのかなと思うところをなぜ道の駅なのかな。

#### ○辻本産業課長

この資料4の10ページがプロジェクト5の概要説明ですが、フォレストピアのキャンプ場整備ではなくて、ひとつの事業で色々な取り組みをしていく中で、道の駅の消費額を設定させていただいた。

#### ○野田委員

さっきの話に戻させていただくとキャンプ場も含めて、観光としてどんな人を町が呼びたいのかが非常に重要かなって思っていて、ただ今ブームだからキャンプ場に来てくれる人が増えれば良いということでは、もうあと1年2年かなっていう風に思います。

私すごくヒントはたくさん落ちていると思っていて、やはりユネスコエコパークの町っていうのがもっともっと観光でも使うべきなのかな。

キャンプ場を作りました綺麗ですではなくて、こんなユネスコエコパークの町にこんなことに配慮したキャンプ場を作って、私たちはこんな人に来て欲しいですということが、これは自戒を込めて言うのですが、やっぱり宮川が綺麗だから何でもいいから来て欲しいですという事業を私もやりたいわけではなくて、やっぱりこの宮川の本当の自然を理解してこういう人を呼び込むっていうのが、プロモーション出来たらな。

やっぱり柱がすごく必要だと思うので、昨年観光振興計画の会議に出させてもらったんですけど、地域住民の方がもっと意識できるように計画ですとかコンセプトですとかプロモーションですとかっていう部分に繋げていけるといいのにはと思います。

ただやりただけでは本当に私自身すごく怖いなど。このアウトドアブームはもう近々終わりかなっていう風に思っていて、事業者だけではできませんので、事業者でできること行政さんでできることをしっかり役割分担していけたらなと思っています。

#### ○西村座長

とても良いご指摘の通りですね。多分そうだと思いますよね。このキャンプ場ブームとか人の流れはコロナが明けた途端に変わるかも分からないし、どこへ行っても今ホテルの予約が取れないというケースがあって、どこかは忘れましたが夏場の特に高級なことか。京都なんかはけっこう人が戻りつつあるなあと。

でも野田さんがおっしゃっているようにさっきのボートの話もそうですけど、大台町にどういう人に来て欲しいかというのが物凄く重要で、これをもっと鮮明に書くべきかなあとと思います。前にも言ったかもしれませんがヨーロッパの人たちは海にバカンスに行く時に常にブルーフラッグの立っている海に行くんですね。

ブルーフラッグっていうのは何かというと国際認証のことでブルーフラッグって旗が立っている所は環境問題をちゃんと意識して再生可能な持続可能な海を維持していますよ、ということで、日本ではまだ湘南とかいくつかしか認定されていないのしょうけど。

それを取れていうわけじゃなくて、それは海の話なので。今のようにエコパークっていうのはなんだろうって言った時に今完全にSDGsのような感じはあるけども、持続可能な社会って結構言われる中で持続可能な社会を体験出来てこういうのがこれからそういう持続可能な社会の一つで体現する場ですよねっていうのを自然の中で体験できるようなツアーとかね。これだったら今の野田さんのやってらっしゃることがまさしくそうなのかなとか、そこら辺をこう飛び抜けた何か突き抜けたものが本当は書けるのに書いていないなあと思っていて、さっきのボートの練習場にしても日本で一番面白い練習場だったら見に来るなと思ったので、今までで一番綺麗な場所で練習したい人たちを呼ぶんだったらすごくいいし、となってくると一番の物をきちんと磨くという作業ができてないなあと気がちょっとしたんですね。

そこができるで大台町にはその目的を持った人たちが来るなと思って、さっきの教育旅行なんてものがすごく見事です。体験型で自然の中で環境問題を意識しながら遊べるって

事はないけど出来るっていうのが体験、教育旅行として一つのコンテンツになりますよね  
ってことだし、ボードの練習をやっていると練習を応援する人たちがここに来て練習  
して、マーチングバンドの人たちがここに来た時には都会では出せない音をここでは出せ  
るとか。何かその研ぎ澄ませた一番の突き抜けるようなことを皆さん経験値持っていて、  
コロナの中でもこういう人たちが来てくれるのだと体験している中で、大台町のこれから  
って考えた時に何か見えてくるような気がしたのですが、エコパークっていうのがひと  
つの切り口かも知れないし、エコパークっていうのが分かりにくい言葉だったらそれをも  
う少し噛み砕いて日本の中で大台町はどういう場所かっていうのを、あるいは世界の中  
でどういう場所かというのを、もう 1 回再提起するような事っていうのも大台町にとっては  
必要なかなというのを聞いていて思いました。

何かっていうのはまだちょっとわかりませんが、少なくとも日本一水が綺麗とか、ここが自  
然の中で森林の中で一番綺麗というのがあるのだったらヒントはあるような気がしますね。  
でもやっぱり野田さん来るわけですよ、人が。リピーターも含めて大台町に対して何かを  
感じて来る人は。

#### ○野田委員

さっき前納さんの話でエンジョイクルーって言うのがかっこいいなあって。本当まさ  
しく先週ですね、横浜から男女のお友達がうちのゲストハウスに三泊四日してくれました。  
初日はうちの夕方のサッププログラムに参加していただいて、横浜から分割できるレガッ  
タを持ち込んで、B&G で遊びたいなど。次の日は B&G からさくらの里公園を越えて昴学  
園のほうまで行って戻ってくる。それを楽しむ。その次の日もう一度うちのサップの 1 日  
クルーズで別の遊び方で。で次の日は伊勢神宮へ行って横浜に帰る。2 年連続同じそういう  
遊び方をしてその方は大台だけではなくて違う地域も富山にも行くって違う地域でもそん  
な遊び方で全国回っている。

その母数がどれぐらいあるのかちょっとわからないですけど、B&G の岡村さんに聞かせて  
いただいたところ、そういう遊び方本当に少ないよって言われたんですけど、私はその層に  
すごく来て欲しいなあって思っていて、水のアクティビティだけでなく自然が大好きでボ  
ートの、私はサップもボートだと思っているんですけど、手漕ぎの物は全部ボートだと思っ  
ているんですよ。いろんなボートを楽しんですごく理想だなあと。しかもすごくお金を落と  
している。

#### ○西村座長

そういう人って口コミするじゃないですか。

すべての人をターゲットにしたら誰も来ないんですよ。

特定の凄くマニアックな、本当のあの人を連れてくるとそれは続くんですよ。

それは何人が捕まえている可能性があるんですよ、既に。

このコロナの受ける関係の中で。だから、それをもう 1 回ちょっとしっかりと精査してみて、そこをしっかりと突っつくようにしていくと何か特徴出るんじゃないかなあと言う気がしますけどね。

#### ○山中委員

プロジェクトが走り出してからコロナになって実際色々な計画とかプロジェクトが思うように進んでいないのが現状だと思うんですけど、それだけに進捗状況というのが正直中途半端なところがあるなあと感じております。

コロナにおいては感染者は増えたがそれほど危機的な状況でないと感覚が変わってきたので、今後の色々な施策、その辺のところをもう少し見直していく必要があるんじゃないかなと思っています。

去年も申し上げたと思うんですけど、色々な策を実施していただいてその情報というのはやっぱり情報発信力っていうのが正直弱いんじゃないかなと思っています、広報とか最近ではアプリですとか、去年の 4 月から私も入れていますが、そういうところでなかなか情報が入ってこなくて、後は自分で聞きに行つてというところで行くともものすごく幅が狭いところでしか情報が得られない。

先ほど先生も言われましたけどコアなお客さんを突つくるのであれば、どういった町の情報発信をしていくとかそういったところの工夫が、今後、必要になってくるのではないかと思います。

それと話は変わりますが例えば農業にしても今やられる方が減っていて農地も空いてきている状況なんですけど、ちょっとわからないんですけどこの大台の地域っていうのは米しか作れない農地何ですか。

#### ○遠藤委員

米もそんなに平地が少ないので凄く適しているとは思えないです。やっぱりお茶が適している土地柄だと思います。

#### ○山中委員

例えば今違う地域ですけど飼料用トウモロコシが輸入 100%ということで、それを国産の物でプロジェクトとして動いている所があると聞いたんですけど、そういった新しい作物で大台町のメインになってくるような物が、もし作れるのであれば、やり方も米じゃなくてもっと手間もかからないような物であれば、人も呼んで来れるかもしれませんし、そういう担い手っていうのも今よりは見つかりやすいのではないかという風に思うんですけど。

あるお客さんの話ですが山の方でユーカリの木を海外から輸入してきて、それを燃料チップで販売と言うか卸している大きな企業さんがあってですね、そのユーカリの木というのが 5 年ぐらいで育つらしいんですね、そういった物を大台町でできないだろうか、という

お話もいただいているところで、それがこの地域でできるのか、あと間伐材とか色々な用件があってそれに認定してもらえるかどうかとか、色々なネックがあるんですけど、なかなかこれが面白いなと思ったのが、人はそんなにかからないのと安定した供給と需要もあってそういった面で新しい分野に何かパワーを注げないかなあと言うところで、お客さんから相談されたベースで何があるかっていうのは今から調査とか、我々金融機関としてできるところで一回調べてみようかなと思っているんですけども、そういったことができないかとあと環境事業にしても先ほど言われた大台町というところに私も来た時に非常に環境と川ですね、これってやっぱり非常に大事にしていかなければいけないと思いましたね。

それに対するイベント、先ほどのポर्टですね、早慶レガッタは私も見に行きたかったんですけど急に決まったと言うか、うちの部長がOBなんですよ、ポスターを貼ってくれと言われてるのが前日の金曜日で、誰が来るんだっていう感じでしたけど、そういった意味でも情報の発信力と言うか、もうちょっと前からあれば我々のところでも協力できることが。結局中止になったという話でしたけども。

#### ○副町長

あれは観客を入れないということで決まっていたため、申し訳ないが情報発信はしなかった。

#### ○山中委員

非常に興味があると言うか逆に言えば実業団の方が来た時に、野球教室のように子供に教えるとか色々なイベントが絡められると思うので、そういったところでできないのかと。あと全然違うところでこれは近くのお客さんから聞いた話ですが、山林をちょっと伐採してサバイバルゲームができる環境を作って。これだったら近畿圏からお客さんを呼べるということで、運営をしている所があるらしい。そんなのができないかということで候補地があってですね、それで動き始めているところが正直あります。

川というのがベースだと思うんですけど、収支を考えた時にもう一つの収益の柱、事業ってやっぱり収支が合わないと継続はできないと思いますので、ベースとして川を利用した観光ってあると思うんですけど、もう一つ変わったところで違う事業をひっつけてですね、それがキャンプ場に繋がるとか、地域の観光の一つの目玉になるのかとちょっと新しい目線で、違った角度から考えることも必要じゃないかなと最近ちょっと思っているんですけど。

#### ○西村座長

色々と話が来るわけですかね、金融機関さんには。

#### ○山中委員

そうですね、やっぱり頭が固まっていると、こんなのも思っていた物がよくよく聞くとこれ

はありかなと。

#### ○西村座長

僕もちらほらそういう話を聞いていてですね、色んな所でできないかという話はあるんで、その中で例えば特にサバイバルゲームは沖縄なんかで結構すごいんですね。

誘われたんですけど米軍基地のそばで本格的なそういう遊びができますよと。やっぱり凄くマニアックな人が行くんですね。

それが大台町に合っているかどうかは別にしても、この自然だからできるって言うコンテンツをいくつか揃えていくっていうことは確かに重要なかなと思いますね。

でも全部が町でできるかっていうのは場を提供しながらコラボするというのを誰かが仕組みないと行けないかもしれませんね。

そうなってくると金融機関さんの立ち位置が重要になってくるし、そういう情報共有っていうのは街とやっていくっていうのはありだと思います。

昔の行政は全てを行政がしなくてはいけないという雰囲気があったんですけど、補助金を付けながらとか、そうではない場を開くっていうマネジメントなのかアレンジメントなのか、そういうことがこれからの行政にも必要なかなという気がしていて、そうするとういう場が出てきたアイデアをどうやって仕上げてくんだらうということ、プロデューサー的な立ち位置でやれるような方が町にいると結構面白いのかなと思っていました。

野田さんのような方に全部委託してもいいのかもしれませんが。

行政の側がそれを傍観者ではなくて当事者として動けるような、もっと肩の力を抜いた気楽さがあると。なんとなく聞いているといつの間にかすごく盛り上がっている時と萎縮している時と、民はあんまり変わってないんだけど行政が少し開いたり閉じたりしているような気がしたんで、ここを安定化させるようなことを何処かでしておいた方が今の話を聞いた時に、もしかしたらとかアンテナを立てるような人が行政にいると面白いかなと。

すいません批判しているわけではなくて、一体ですからね、この地域が良くなることとか面白くなることに対して反対する人は誰もいないと思うんで、立ち位置は全部違ったとしても貴重な情報だと思いましたね、ありがとうございます。ちょっと適当なコメントしてしまいましたけど。

#### ○山中委員

また何かアイデアとかがあれば我々として応援している会社であるとか民間を使って、引っ張っていくとかそういうところ辺のお手伝いというのができるかと思いますので、こんなんでやるかとか本当に漠然としたものでいいので、そんなものを持ってきてお金が絡むとかそういうことじゃなくて、色々な事を相談いただければ何かしら完璧にはできないと思うんですけど、何かしらはお手伝いすることができると思いますので、またなんなりと教えてください。

### ○西村座長

非常に力強いお言葉ですね、そういう立ち位置の銀行さんがいらっしゃると言うことを町として認識していただくといいのかなと思いました。

### ○橋本委員

いろいろ聞かせていただいて自分が思うのは対象と目的、これが何よりも大切だと思います。

学校も一緒だと思うんですけども、どういう生徒を育てたいからこんなことをしています、というのがまずないとスタートしないのではないかなという風な気がしています。

ひとつひとつのプロジェクトを見て思ったのが、もっと深みに繋がるような取り組みにして行かなくてはいけないという風を感じました。

例えば本校でもレガッタ体験とかサップ体験とかさせていただくんですけども、アンケートを見るとですね、楽しかったとほぼ答えるんですね。でも、もう1回やりたいですかと聞くと、ほぼもういいと言うんですねここが大いなる課題です。

もう一つはそれぞれプロジェクトをどのように繋げるのかなって思っています。

自分スキューバダイビングを結構本格的にやっています、和歌山県の串本町に結構通っているんです。あそこって四季によって海の中の環境がまるで違います。台風が来る前と来た後では全く変わります。

なので、結構頻繁に行ってですね、その時に空き家に一泊3,000円ぐらいで泊まらせてもらうんですね。という風に色んなプロジェクトを繋げてあげることによって活性化してくる部分が大いにあるんじゃないかなと感じています。

あの先ほど野田さんが言われたようにキャンプ場は確かに今ブームになっていますが、今から何年か経ったらこのブームがどうなっていくんだろうって自分も感じています。

学校も一緒なんですけども、今の生徒たちはこうだよねと、その生徒に応じた教育をしていくと逆に学校がブレてくる。だからそれよりも先にどういう生徒を育てたいんですか、だからこんな行事をしています、といういわゆる一本筋を通して何か経営していかないと、ここが大事なんだなということに自分は感じていて、今これにすごく力を入れてということで、偉そうな話をさせていただきましたが。

あと道の駅に関してもうちの学校の職員で大台町在住は一人しかいません。職員一人しかなくてその他の職員は通っているんですね。松阪、津、伊勢から通っています。

その職員に道の駅で大台町ならではの物を何か買っていかうと思うんですけど、何があるって聞くと、ないよって答える。ここが大いなる課題かなって感じます。

課題で申し訳ないんですが、僕はそのように感じますのでそこもいかに大台町の中にあるキャンプ場で扱っているものとかですね、そこら辺をどう繋げていくんだろうっていう気がして、昴学園として出来る事であれば何でもしますので、本校の生徒が自分から主体的に

色々なことに関わっていけることであれば、全てやっていきたいという風に感じていますので。ということで道の駅プロジェクトに参加させて頂いていますし、今は森の番人のキャラクターがリニューアルするということで、生徒に関わって色々なことをやって行きなさい、うまくいかなかったらそれでいいから、というような話でやらせて行きますので、是非言っていただけると、うちも一歩踏み込んで何か参加させて行きたい。で、やるからには完成度が高いものを目指せと教員及び生徒に言っていますので、中途半端なことはするなという風なことは言っています。こういう風な姿勢で行きたいと感じていますのでぜひお声かけください。

### ○西村座長

ありがとうございました。力強いお言葉をいただきました。中途半端は駄目ですね。私たちがそうなんですけど高度経済成長期にかかっている人達っていうのは、なんとなく日本が貧しかったのが全体的に上がっていくって言うところ、何か全国一律でみんな上げてったらって言う何かそのようなちょっとした記憶があって、自分のところを否定している先入観と言うか潜在的なそういうのを捨てなくてはいけません。自分の所をもう 1 回しっかり見てみると、他と比べて何が特徴なんだろうというところが実は住んでいる人が一番見えてなかったりとか行政の方が一番見えてなかったりするんじゃないですかね。だからそこはちょっと柔軟な発想で、今のような山中さんとか外から来た方々が凄いなんで行かしてないんだろうな、ということが結構あるかも知れない。野田さんなんかをうまく使っているのかも知れない。だから野田さんが住み着いている理由を徹底的に聞いてみると、実はその中にさっき言ったような横浜から来る人たちが来るような、何か魅力的なものが誰も感じ取れてない大台町に人にとっては感じ取れていない本当の良さみたいなものが見つかってくるかも知れないですね。その中にはもしかしたら研ぎ澄ませた時には、さっきの中途半端じゃなくて誰もついて来られないような圧倒的な一番の物が大台町にあって、そこには橋本先生が日々串本に通うように大台町に通うような人たちが出てきて、1 年中ここに対して何かの変化を見ながら突き詰めてくような玄人に受ける町って言うんですかね、何かそういった物をこの人口でこの場所で行くんだったら、みんなに来てもらわなくていい、むしろ千人に一人行きたいっていう人がいたらラッキーって思うぐらいの町を目指すようなことが、と思ってちょっと聞いていました。一通り皆さんからお話を聞いたんですけど、どうですかね、感想も含めて。

### ○副町長

もの凄く良いお話を頂いて、それで私も今若い時みたいに全国を走っていませんので、何か

こう自分の今の立ち位置がやっぱり時代の中で遅れているのではないかな、という感じを絶えず持ちながら、副町長というのは留守番役のような格好でございますので、その中でここへ閉じこもって仕事をしているということが、本当に見えているのかいつも感じています。それで今お話のあった道の駅の挨拶、そのコミュニケーションでありがとう、おはよう、その二つがやっぱり効果があるんだなあということを、改めて私自身感じただけでも嬉しかったと思っています。役場で言っているのはそれだけです。

おはようという挨拶を元気にいこう、そして笑顔でいこう、正面に立って挨拶にいこう、なかなか出来ている人は半分もありません、正直に言いますと。

わざわざ挨拶に回って行ってもかなりできない部分があります。これはもう長年の習性で、今までおはようございますと言っても腕を組んでおはようございます、とほとんどがされていまして、それを立ってその人の方を向くことはかなり難しいというのが現実でした。4年間しつこく言ってきました。玄関をとにかく美しくしようというのを役場へ来ていただいた人のおもてなしの中で、どういう心が生まれてくるかっていうことが、少なくとも町民のみなさんが入ってこられる所をしっかり綺麗にしてやるっていうことが、少なくとも役場の職員としての立ち居振る舞いと言うことでやらせていただいて、これが玄関だけではなしに今は周囲にまで見えてきました。これを地域に当てはめると自分ところの玄関を綺麗にしよう、付近を綺麗にしようということが、今玄関は綺麗だが周囲の草をちょっと放っておくと、もうこれくらいの草が 1ha という草が増えていくような状況になります。そうすると自分の周りを綺麗にすることが周りを綺麗にしていくというような、そういう私はユネスコエコパークの教育と観光と健康の三つのキーワードで私はお話しさせて頂いています。ごめんなさい理屈っぽくて、具体的には花が散ってそれが飛んで周りに迷惑をかけるということが教育、これを昔は教えてくれていました。おばあちゃんおじいちゃんが今はそれを全く教えてもらえません。これは役場の職員でも理解できない人がいると思います、それぐらいの教育レベルに今なっています。

そののところを一つ一つやってもし私が、玄関を綺麗にするまち大台、地域を大事にする、来ていただいた方々を大事にする大台、こういうキャッチフレーズで実行すれば必ず私は面白い、大台はどんなことをやっているんだという風に町に訪れてくれると思いますし、私はそんな町だったら行きますというのがいいですから、我々は人が来て欲しいと言うけど自分自身がどうなんだという時に、同じぐらいのレベルの人しか高いレベルの人が来てくれるわけがないと思っています。

その西村先生はそういう意味で私は非常に貴重な、皆さんは貴重な方々だと思っています。そして環境という問題が出てくる、綺麗な空気と水の中で健康づくりをどうするんだということで、体操を一生懸命やっています。やるんだったら一生懸命やろうと基本的に忠実にやろうということですが、なかなかやっぱり体操でも踊りみたいな体操でもっとぎゅっと伸ばそうと言っていますが、やっとなんか浸透してきたんですけども、70歳になったら効いてくるぞと話をするんですけども、20代では正直私らそんなのどうでもいい

と思ってやってきましたので強制はしませんけど、時間前に体操を行ってくれますので。しかしやるのなら一生懸命。しかしそういうグループをたくさん作っていくと、結構この町も面白いし自分たちのことを考えてくれているんだなあという、まちづくりにつながっていくと思って、今までそれを気づいてもらうために、あんまり理屈を言わないことをやってきました。ですから私はあの秋山先生とお会いした時に何が一番大事ですか、と聞いたら看板が無くて看板が綺麗な町というのが森本さん素晴らしいですよ。は？と思いましたがよく見たら弥起井という看板が汚れている。これをまあ全部拭こうということで拭きに朝から晩まで拭いて、課長にも見てくれと言って拭いてもらって今何年か掃除していなかった看板が綺麗になった。

100人いますので一つ一つ何かすればいい、私は草刈り看板磨きかしかできないので、そこから町をどう動かしていくのかということ、これから課長の皆さんにお願いしてそこから、中途半端は駄目だと先生も言われたし、ボートでもそうですし、私はコーチが必ず入ってきてくれると思うんです、大台の町で一旗ボートでやってやろうという方が必ず見えると思うんです。そういうところへ向いてアピールして行って、そしてその先生を慕う子供達が来て、そしてその周りが活性化していくとこの町ってというのは面白い。そのポテンシャルは十分できていますし、今の課長の皆さんはかなり縦割りで仕事をしてもらっていたのが横櫛で自分たちの考えを自主的に動けるように4年間かけてなってきましたので、この動きをどうやって行くか、そして皆さんのご意見をいただくということがかなり私は面白い町になっていくと思います是非そういう面で。

しかし気付きが無いといくら皆さんから言われても、自分で気付かないと職員というのはなかなか出来ないのです。いくら教えてもらっても、こうしてと言われてやっても仕事はできないのです。自分で気付けばできるのですが。

そのところ気長に待ってもらって、皆さんのとにかくこういうお話を聞かせてもらって、少なくともこのメンバーはかなり得をしていると私は思っています。中には難しいことを言われて困るという職員もいますが、このメンバーはないと思います。しかしそういう面では私自身も含めて今日はプラスになったなあという風に思っています。

#### ○西村座長

あのとても重要なことを仰っていただいて、今日の会議の冒頭の遠藤さんの言葉がすごく良くて、やっぱり基本なんですよ、人と人とのコミュニケーションがしっかり取れる町は。おはようとかありがとうと当たり前のように、これが人の心をほぐすではないですけど安心感を与えると言うか頑張ろうっていう気持ちになるんですよ。

これが基本だとしたら、基本ができていく町というのを大台町だっていうのは、このエコパークっていうかっこいい名前が付いているけども、エコパークを支えている基本のところ、なので副町長が仰っていた役場の皆さんがその意識を持って、この町の基本を作る基礎を作るといような形で、体力を作るんだったら運動をしっかりできる

町とか、挨拶がちゃんとできる町、掃除がちゃんとできる町、隣の家のことを考えながら自分の家を綺麗にする町というのは基本なんだけど、これが徹底的にできる町って無いですよ。これってもうひとつの裏返しになるとプライドになるんですよ。

誇りっていうのかな、誇りは結果的に自信になるんでね、副町長の話聞いてもう一つ思ったのは結局鏡なんです。自分の鏡になるような人しか来ないんですよ。だから色々な所に行くと分かるのは、本当に場所の雰囲気によって来る人の層が変わります。日本の中は何となくごちゃ混ぜになって下に集まっていますけど、イオンモールに行けばオッケーだと思って行く場所がなくなるんですよ。本当の本物がわかる人たちにとっては、日本の中で行く場所が均一化されていて行く場所がない。

ただし、これだと思える均一じゃない飛び抜けた本当の玄人にとって凄くいいなと思う心地いいなと思った所というのは、見る人にとっては見えるんですよ。

そういう人たちというのはリピーターにもなるだろうし、そこにこだわりを持って来るんだと思うんです。

大台はそういう町になるべきじゃないでしょうか。そのためには基礎的なところ、さっきのような人と人とのコミュニケーションに対しては、もう日本の中ではしっかり出来ているという足場がちゃんとあって、その前に前納さんが言っていた、皆さんがやっているようなボートに関しては日本ではトップクラスだよ、サップに関してはトップクラスだよ、昇学園なんかもう僕は素晴らしいと思って。今は全寮制ではなくなったかも知れないですけど、地域のことを考える子ども達がいるよ、遠藤さんのような農家もちゃんとやっているよ、というのが上に乗っかって当たり前のように誇りを持ってこの町を生かして使いきっている姿が見えるだけでね、そこに共感なのか心地よさというような、心に対して響いてくる心地よさみたいなものを感じて来る人達、そういうレベル感の人達を集める町としての吸引力が出るような気がしたんで、うまいまとめ方になったかどうかわかんないんですけども、ポテンシャルは相当感じますよ。

行政の役割もあるし、事業でやっている方々の役割もあると思うし、ただ分担ではなくて協調が絶対あるはずだと思うので、流行り言葉で言うと共創ですよ、共に創るなんですよ。

ということをやればいいので、この会議というのがそういう皆さんの想いを、今思っていることをさらけ出すという場としては、とてもいいのかなと思って私は今日聞いていました。まだ少し時間があるんですがいかがでしょうか。ここまで話をしながら言い足りないことがありましたら。

## ○前納委員

今お話の中でメンタルと言うかマインド的な話と、マネーというマーケティングの話がごちゃごちゃになっていて、僕ちょっとそれが、森本副町長が仰ることもすごくわかるんですけども、元を正せばこの事業ってそもそも何のためにやっているのかなと思って。例えば西村先生が1,000人のうち一人来ればいいよねって仰ってましたが、1,000人のうち一人連れ

てくれば、この事業案を組んだ計画は完遂と言うか成功なのか。要は何を目的としてされているのか、これにないような気がして。だからこそ例えば僕も商売をしているんで変な話ゴールがあって、だからボートはさっきも言ったように経済効率を求めていない、地域貢献として僕はやっているんで。ただ自分の生業として商売といった時にゴールがある、ここの目標に対してこういう風に進む、じゃあこれに対しての方針はどうなのかっていうのを考えると思うんですけども、この事業って何を目的としているのかなあというのがあって、これももし変な話、今の話でコミュニケーションという話なんだったら、あいさつ運動した方がいいよとか、コミュニケーションきちんとした方が良いように思うんです。

例えば出生率を上げたいとなった時にこれなのか、道の駅の KPI なんですけども、これがフォレストピアのキャンプ場を整備してキャンプ場で利益を出すんだったら、これってやっぱりキャンプ場だと思うんですよね。立ち寄っていただくというのはあると思うんですけど、これって別にキャンプ場を利用しなくても立ち寄っていく可能性はあるんで、ここのパーセンテージって分からんよねという話なので、そこはデータ上どうなっているのかっていう話もあるんですけど。

#### ○副町長

前納さん、キャンプ場はあくまでも経営の一角で利益を出していくということです。

#### ○西村座長

これは活動の積み合わせの最後の所は、僕はこの町に皆さんが生き生きと住み続けるということだと思うんですよ。

KPI の中の数字はね、1,000 人に一人というのは結局ターゲットはつきりしないままやっていたら一人も客来ないよ、1,000 人に一人の人がここに来たいなと思ったら、日本人の人口 1 億来てもらうんじゃないよ、一億の中の 1,000 分の 1 の確率で来るような人たちが大台町を飛びぬけていいなと思わないと、多分そういう人たちが来ないよねと言っているんですね。

結果的にそれがこの数字の所にね、この数字を達成するためならそれぐらいの、逆に言うと顧客の絞り込みをしないとさっきの情報発信も誰に向かって情報発信するのか、その人たちが本当に来るようになるのかどうかを含めて、策を考える時にはできないんじゃないでしょうか。

結果的にマーケティングも含めて実行の時には、根底にある精神論はあるけども、それを落とし込む時の繋ぎとしての説明はやっていたつもりなんですよ。

#### ○前納委員

その動機理由付けとしてその方法をとるのかという話を聞きたくて。

1 億 3,000 万中で 1,000 分の 1、そうすれば何人来るのかはわかります。全員が来なくてい

い。その数字を出すにしてもこの元々の目標値が先生がさっき仰った、より良い大台町を作るといった話だったらそれはわかるんですけども。

#### ○西村座長

元々そういうことで地方創生の総合戦略を立てられています。

そこに色々な項目ごとに11のプロジェクトがあって、もっと後ろには総合戦略っていう壮大な文章があるんです。

そこから実行していく各論を落とし込んでいって、今回はこの5つのプロジェクトについて説明があったという理解で僕はいるんですけども。

でそれぞれがどういう風に実行していったらいいかなと聞きながら話をしていったつもりなんですよ。

#### ○山中委員

人口が減少していくというのはもう分かっている、30年後の数字が出ているじゃないですか。それをまあ減っていくのはしょうがないけども緩やかにしていけないかと。あとは人口は減るけど県外から人を流入させて、屋間の人口じゃないですけど観光など色々なところで潤えば町民も豊かになるよと。それが根幹だと思っています。

#### ○西村座長

根幹なんですけどね、この数字を見る時に効いてないんですよ。

出生率も落ちている、人数も減っている、ここから人が出て行く、思ったように人が来ていない。これが見えているのが今回の結果なんですよ。

だからこれをどうやってしっかりと、単なる机上の空論ではないですけどアイデアをどう活かしていくといった時にそれをディスカッションしたつもりです。

#### ○山中委員

前納さんが言われているのは事業としての話だったら、一つ一つの目標を追っかけているだけなんですけど、もともとはそこがあると言うか大儀があって、そのためにいろんなプロジェクトを立ち上げて、ただ単にやるんじゃなくて目標設定が必要だよということ今やっている。

だから単純に言って金融機関の目で見れば、今の状況だったら正直事業としては成り立っていない、これはもう客観的なところですけども、そうじゃないよっていうところでこの会議を開いている。

#### ○西村座長

精神論的に聞こえたことは、全てに対する掛け算の重要な要素だと僕は思っている。

大台町が外から見てくっきりはっきり見えなかったら誰も来ませんよね。  
それが無い中でキャンプ場作りました、それが無い中でボートの事業やりましたとしても駄目だと思うんです。  
だから皆さんにプライドを持つような形の基礎的なものを見つけたらどうですかと言うお話をしたつもりなんです。  
個々の事業としては確かにもっと戦略的ないやり方があるかも知れないです。  
そこは私たちはプロではないので、これがどう活かされていくのかといった時に、何か足りないんじゃないかというのを、みなさんの話を聞きながら、そういう共通項のようなものが無いかな、いつも見出しているつもりなんです、そういう会議なんですよ。

仰ってくれたことはすごく意味があって、やっぱり今暮らしている方々が事業をやっている方々が、どう思っているかっていうことがはっきり出て来ないと、あと町がやったことがどうなったかがはっきり出てこないとちゃんとした議論ができない。形式的な話し合いをしたとしても、やっぱり面白くないと言うか何も進まないの。だから僕はこういうやり方をさせて頂いている。

前納委員

ありがとうございます。お金が使われているのでお金が使われている以上、やっぱりちゃんとしなくてはいけないと思いました。

西村座長

確かに費用対効果というのは絶対に検証は必要なので。

閉会

○西本企画課長

皆さま長時間にわたりお付き合いいただきましてありがとうございます。  
また、会議終了後も、改めてお気づきの点などがあれば事務局もしくは担当課へご連絡いただければ非常にありがたいと思いますのでよろしく願いいたします。  
また、次回の会議では、本日いただいた貴重なご意見を参考に新たな動き等を報告できるよう努めてまいりますので引き続きよろしく願いいたします。  
それではこれで閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

閉会（12時00分）